

1-3 供給処理施設

(1) 施設の概要、設置状況

供給処理施設は、伊賀市清掃施設の設置及び管理に関する条例に基づき、浄化センター、さくらリサイクルセンター※20、不燃物処理場、ストックヤードがあります。これらのうち、主要な建物を有する以下の3施設を対象とした分析を行いました。

なお、浄化センター及びさくらリサイクルセンターについては、運営の委託を行っています。

施設名称	地区	所管課	施設延床面積	駐車場	運営形態	設置根拠	備考
浄化センター	上野	浄化センター	3705.00㎡	有	委託	伊賀市清掃施設の設置及び管理に関する条例	旧青山町エリア以外を対象
さくらリサイクルセンター	上野	清掃事業課	10811.34㎡	有	委託	伊賀市清掃施設の設置及び管理に関する条例	旧青山町エリア以外を対象
不燃物処理場	上野	清掃事業課	96.30㎡	—	直営	伊賀市清掃施設の設置及び管理に関する条例	旧青山町エリア以外を対象

表 2-1-7 供給処理施設の一覧



さくらリサイクルセンター



浄化センター処理場

なお、供給処理施設については、伊賀市総合計画後期基本計画（平成23（2011）年12月）において「環境にやさしい循環型のまちづくり」「環境への取組が進むまちづくり」の中で、ごみ減量化への取組や資源ごみリサイクルの推進が掲げられています。

※20 さくらリサイクルセンターは、現在地での稼働期限が平成32（2020）年度末となっています。そのため、今後の廃棄物処理のあり方について検討する必要があります。

(2) 施設の状況

供給処理施設を構成している7棟の建物は、延床面積の合計が14,613㎡、老朽化率の平均が24.9%となっています。また、主体構造は鉄筋コンクリート造が中心となっており、旧耐震基準の浄化センター事務所を除く6棟が耐震性を有しています。

なお、浄化センター事務所は、今後10年程度で耐用年数を迎えます。

施設名称	建物名称	延床面積	建築年度	老朽化率	残存年数	主体構造	耐震性	大規模改修	建物性能
浄化センター	第2処理場	1028.00㎡	平成7年度	40.5%	22年	鉄筋コンクリート	有	無	2.7点
	事務所	208.00㎡	昭和45年度	80.0%	9年	鉄筋コンクリート	無	無	
	第1処理場	2469.00㎡	昭和59年度	70.2%	11年	鉄筋コンクリート	有	無	
さくらリサイクルセンター	資源化ごみ処理施設	3281.10㎡	平成22年度	0.0%	37年	鉄骨鉄筋コンクリート	有	無	3.9点
	管理棟	1219.17㎡	平成14年度	16.0%	41年	鉄筋コンクリート	有	無	
	ごみ燃料化施設	6311.07㎡	平成14年度	21.6%	29年	鉄筋コンクリート	有	無	
不燃物処理場	管理棟	96.30㎡	平成8年度	37.8%	23年	鉄骨造	有	無	3.1点

表2-1-8 建物性能一覧表

図2-1-15のグラフからは、浄化センターの建物性能評価点が2.7点（用途内平均3.2点）となっており、供給処理施設の中で最も低くなっています。これは、施設の老朽化率が60%を超えており、昭和45（1970）年に整備した事務所の老朽化率が高いことと、耐震改修が未実施であるためです。

なお、市内の全施設平均（2.7点）との比較では、全施設が平均を上回っています。

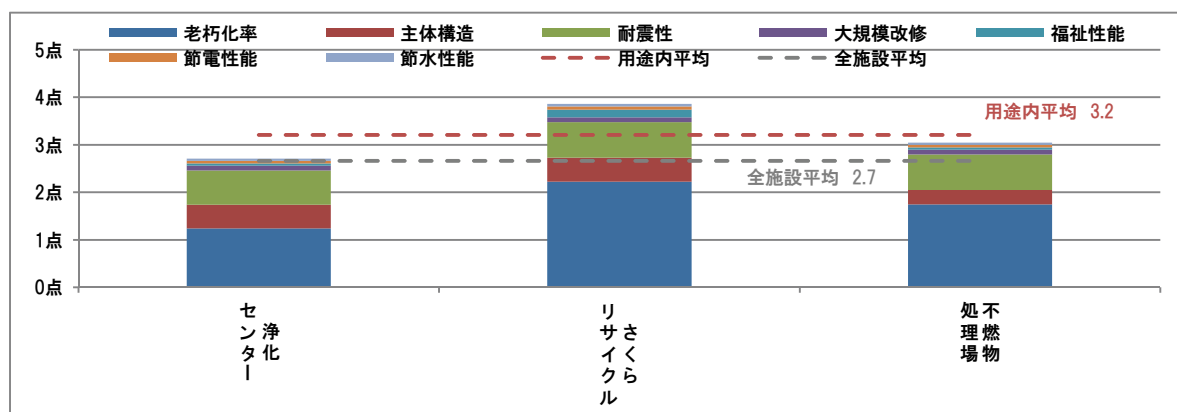


図2-1-15 建物性能評価点の比較（5点満点）

(3) 財務の状況

図2-1-16は、各供給処理施設の保有コストの過去3年間の推移と面積当たり保有コストを比較したグラフです。供給処理施設全体の保有コスト（744,816千円/年）のうち、委託料が占める割合が29%（218,329千円/年）と最も高く、次いで修繕費の割合が28%（212,499千円/年）、燃料費の割合が24%（180,906千円/年）となっています。

なお、さくらリサイクルセンター（54.9千円/㎡）の面積当たり保有コストは、本市が保有する全施設の中で最も高くなっていますが、これは過去3年間で平均2億円ほどの修繕料がかかっていることと、事業運営のための燃料費と委託料が含まれているためです。

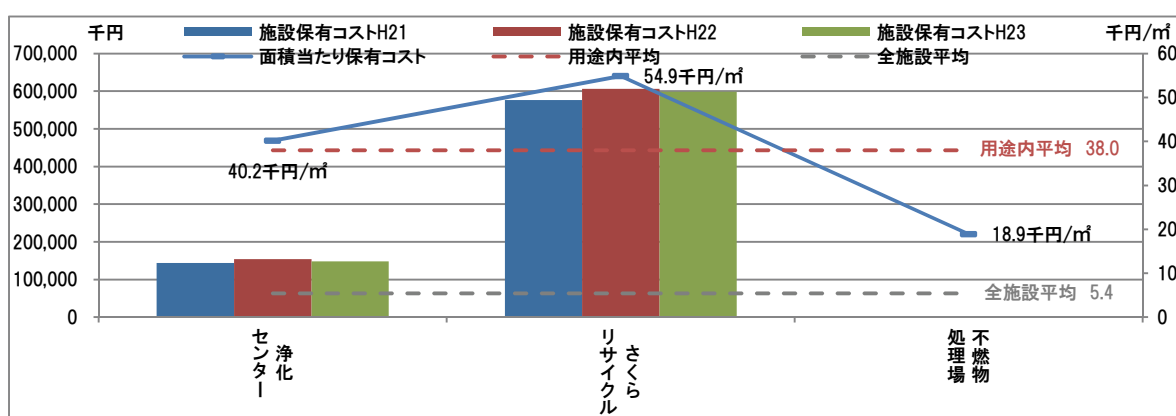


図2-1-16 施設保有コストの推移と面積当たり保有コストの比較

また、施設の保有及び事業運営にかかる総コスト（1施設当たり334,008千円/年）のうち、人件費が占める割合は3%（11,432千円/年）と低くなっています。

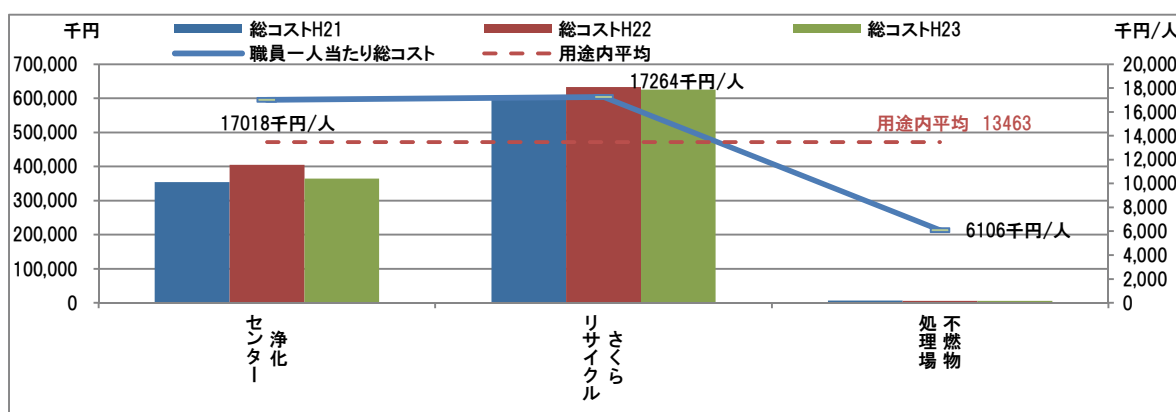


図2-1-17 総コストの推移と職員一人当たり総コストの比較

(4) 供給の状況

平成23（2011）年度の供給処理施設の職員数は、浄化センターが22人、さくらリサイクルセンターが36人、不燃物処理場（嘱託職員）が1人となっています。

施設名称	処理量_H21	処理量_H22	処理量_H23	処理能力(年)	職員数_H23	稼働率
浄化センター	52724 KL	53792 KL	54986 KL	54750 KL	22 人	98.3%
さくらリサイクルセンター	20842 t	20508 t	20455 t	40500 t	36 人	50.9%
不燃物処理場	1311 t	1244 t	1191 t	15m ³	1 人	65.0%

表 2-1-9 供給処理施設の利用状況

供給処理施設については、浄化センター及びさくらリサイクルセンターは「年間の処理量実績（KL、t）÷年間の最大処理能力（KL、t）」を指標とし、不燃物処理場は「埋立て容量（m³）に対する残余量（％）」を指標とした稼働率の比較を行いました。

稼働率では、浄化センターが平成23（2011）年度に100%を超えており、処理能力に対する余裕がありません。

また、さくらリサイクルセンターでは、稼働率が50.9%、毎年微量ながらも処理量が低下していますが、これは近年のごみの減量化（過去3年間で約2%減）などの取組の影響もあると考えられます。

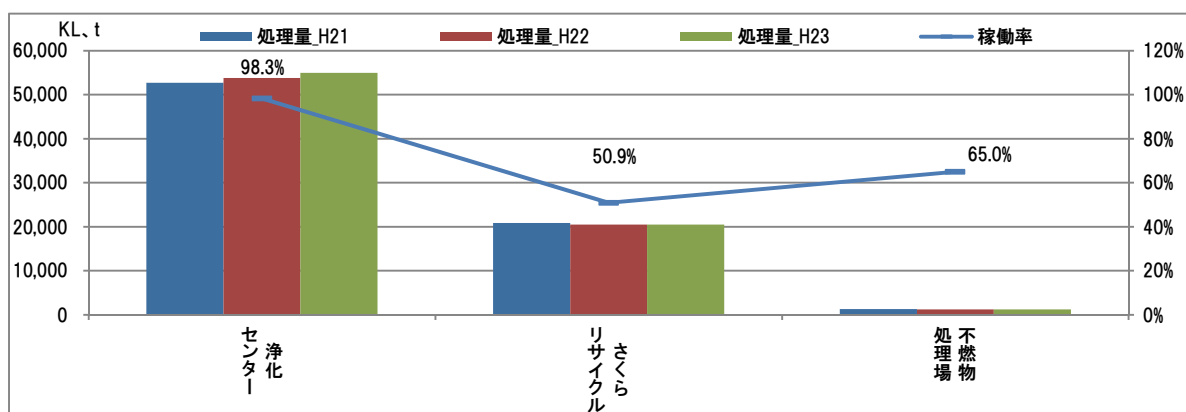


図 2-1-18 職員数の推移と供給処理施設の稼働率

(5) 施設配置状況

供給処理施設は、青山支所管内を除く伊賀市全域にサービスを提供しており、対象の3施設ともに上野地区に所在しています。

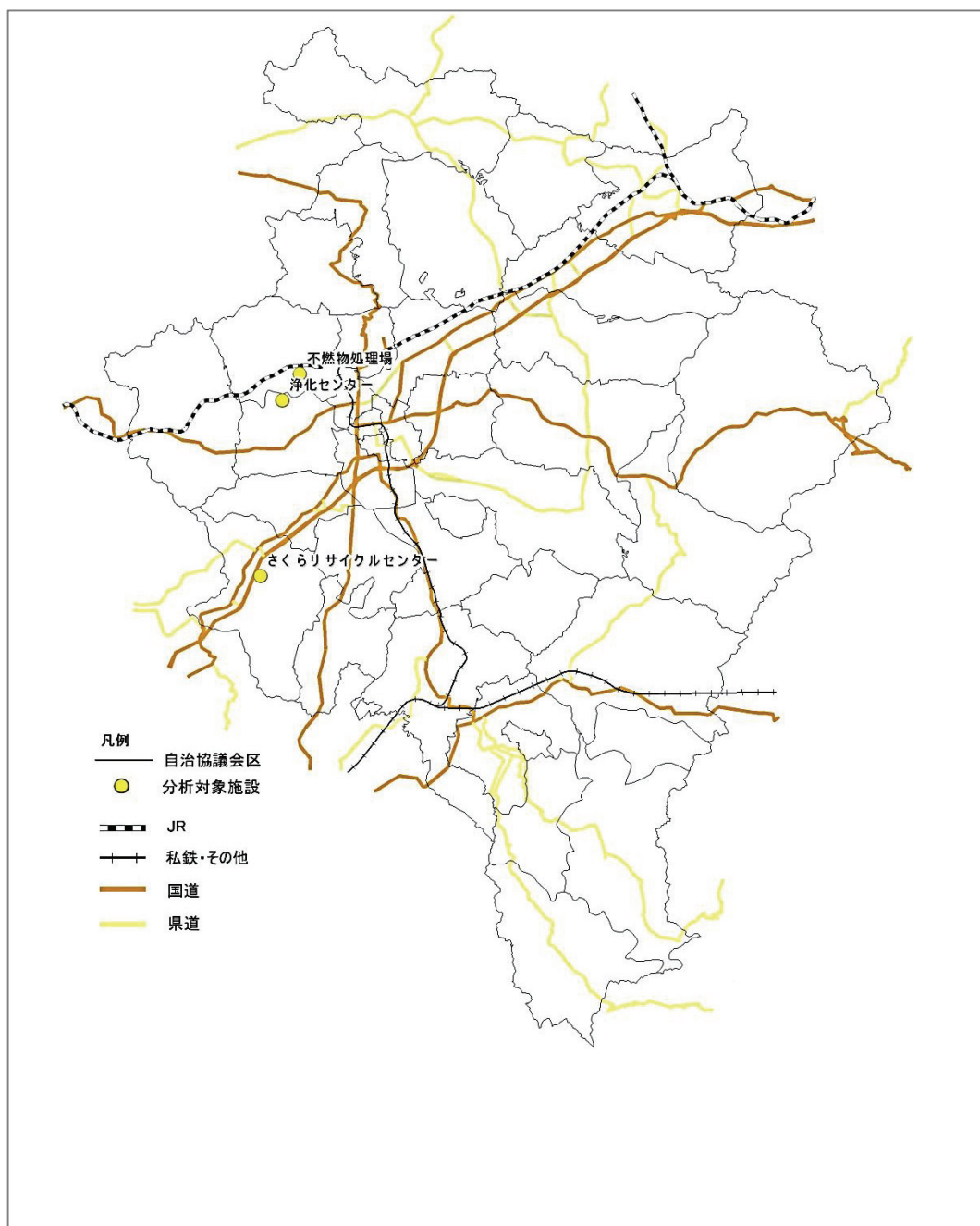


図2-1-19 供給処理施設の配置状況

(6) 現状と課題

<施設>

過去20年以内に建築された建物が中心のため、施設の老朽化率は24.9%と良好な値となっています。

しかし、浄化センターの事務所や第1処理場については、昭和40年代から昭和50年代にかけて整備されており、今後10年程度で耐用年数を迎えることから、中期的な改修などの検討が必要です。

<財務>

供給処理施設の性質から、面積当たりのコストは全体的に高くなっている傾向があります。今後は、人口の減少による処理量の自然減少に加えて、ごみ減量化への取組や資源ごみリサイクルの推進など、能動的な取組によって処理量の削減とコストの削減を図り、環境にやさしい循環型のまちづくりを実現することが重要です。

<供給>

浄化センターでは稼働率が100%近くになっているという現状を踏まえ、今後の施設整備を検討する必要があります。

また、さくらリサイクルセンターは、現在地での稼働期限が平成32(2020)年度末となっています。そのため、今後の廃棄物処理のあり方について検討する必要があります。

